

<第3分科会>

「他教科や総合的な学習の時間と関連付けた学習」
提案者 下松市立下松小学校 教諭 浅村 芳枝

1 発表要旨

「変化する社会に主体的に対応する力の育成をめざした家庭科」

他教科との関連を図ることで、家庭科における食育・消費者教育・環境教育・情報教育をより充実させ、変化する社会に主体的に対応する力を育成することができると考えた。

(1) 研究の概要

① 関連についての考え方

家庭科の学習において興味や必要感を感じた課題のうち、家庭科の学習内容にはない知識や技能などを必要とするものを追究する場として、総合的な学習の時間や他教科などを位置付けた。さらに、総合的な学習の時間や他教科などで調べて興味や必要を感じた課題のうち、家庭科に関係の深いものについて調べたり実践したりする場として、家庭科を位置付けて考えた。実践に際して、年間指導計画の編成の工夫とそれぞれを生かす題材、単元設定の工夫に留意して取組みを進めた。

② 関連のタイプ

互いが関連しながら並行して同時に進んでいくタイプ(A)、一方での学びを受けてもう一方で発展させるタイプ(B)、互いがミックスされた合科的なタイプ(C)の3タイプが考えられる。

③ 各教科などとの内容の関連性

各教科の学習内容を視野に入れて現在のカリキュラムを見直してみると、家庭科は総合的な学習の時間、国語科・社会科・理科・道徳・特別活動などに関連性があることが分かる。

(2) 研究の実際

① 総合的な学習の時間との関連

ア 「笠戸の海にやさしい洗たくをしよう」
(環境) Aタイプ

総合的な学習での気付きから、排水の汚れを少なくする洗たくの仕方を考える。

イ 「やってみよう!エコクッキング」
(環境) Bタイプ

エネルギーの大切さに気付き、調理時の工夫を考える。調理の過程をごみ・排水・エネルギーの視点で調べ、ガスの使用量、排水の汚れの量を少なくする工夫を考えた。

ウ 「地域から環境を考えよう」
(環境) Cタイプ

総合的な学習の時間と家庭科の両面から自分たちに何ができるかを考える。

② 社会科との関連

ア 「旬のおいしさ、いただきます!」
(食育・環境・消費者) Bタイプ
社会科「これからの食料生産」と家庭科「旬のおいしさ、いただきます!」

③ 社会科・総合的な学習の時間との関連

ア 「めざせ!買い物名人」での関連
(食育・環境・情報) Bタイプ
社会科「わたしたちの生活と情報」総合的な学習の時間「情報社会とわたしたち」家庭科「めざせ!買い物名人」

(3) 研究の成果

- ・課題解決において、興味や必要を感じて取り組むことができた。
- ・自分のこととして考え、解決に向けて行動しようとすることができた。
- ・消費者としてのあり方を環境・情報の視点から考えることができた。
- ・他教科等と家庭科で学習したことが意識の中でつながった。
- ・他教科等においても意欲的になり、学習の質が高まった。

2 研究協議

- 司会 他教科から家庭科につなげた実践はないか。
- 環境問題をとらえ、笠戸の自然や水やごみを洗濯に結び付けていてよいアイデアである。家庭科を担当が教えていると、総合的な学習と結び付けることが容易であるが、専科が指導する場合は指導計画をしっかりと立て、連携を密にしないといけない。
- 司会 調理実習時に出たごみの問題を取り扱ったり、調理実習の食材について学級園で栽培したりしている例はないか。

- 畑で育てたものを調理することにあこがれている。自分たちで育てるということで嫌いなものでも食べられるようになると思う。ゴーヤを育てたがうまくいかなかった。育てるとなると畑の確保から育つ期間など、早くから意識して計画的に行わなくてはいけない。

司会 公開授業でかぼちゃを育てて調理したという話があったが、そのように栽培したのを使って調理実習をしたことはないか。

- 福祉の学習で「みんなの気持ちを縫う」ということでタペストリーにしたことがある。一針一針縫っていき、学校に残した。かぼちゃプリンやケーキを作って食べたが家庭科とのつながりは何かなと思う。
- ふるさと学習で笠戸いもを育て、調理実習や給食に使うことをした。島なので魚を捕ったときに総合的な学習の時間に三枚おろしの練習をしたり、海で捕ったものが給食に出たりする。

質問 他教科との関連で家庭科を仕組む場合、学校体制でしているのか、それとも自分のものとして進めているのか。

答え 小規模校では全校体制でしていた。大規模校の時は、学年で揃えるようにしている。資料やワークシートを渡して活用するよう声かけをしているが、家庭科で取り上げられることはなかなか難しい。

司会 家庭科と結び付けて学習するのは難しいようであるが、家族団欒と道徳を関連付けてできそうだ。

- 家庭科では食べたり作ったりと活動自体を楽しむことが中心になっていて反省している。生活科の学習で楽しかったことを覚えていて、それと関連付けて行うこともあった。今日の公開授業をみて、6年の衣服の学習でもグラフや算数と関わりがあると思ったし、実験が大切だなと感じた。実際にやってみることが大切。実技と同時に客観性を育てないといけないと思った。
- 実験などを通して体験的に学ぶ。指導者側として調理室を整備していくことも大切だ。
- いろいろな授業につながるの、前もって一年間の学習が頭に入っているとよい。他学年も見て学年でお互いに情報交換が必要。例

えば、4年の社会科でのごみ学習と家庭科の実習でのごみのつながりや5年の国語でのインスタント食品賛否のディベートなども家庭科と関連させることができる。

- 家庭科と他教科とを関連させるには、他学年の学習内容をよく見ておく必要がある。4年生のごみ学習が家庭科で生かされたり、2年生で勉強したことが生かされたりする。3年生、4年生で水やごみなどを学習していることも関連している。
- 新学習指導要領では環境を意識した授業づくりが大切。4月から五感で感じさせながら水を大切にしたい使い方をさせる必要がある。グラフ化したり水道料金を調べたりして意識化させた。国語や算数や理科などと関連させ総合的に取り扱うことができる。今まで学習したことを上手く引き出しから引き出してやるのが教師だ。4年生までのことをふまえて2年間の(5・6年)のガイダンスをする必要がある。

3 指導助言

岩国市立玖珂中央小学校 校長 松 金 静 枝

家庭科は、子どもが変容するエネルギーを与えるものであることを強く感じる。家庭科の力はすごい。子どもが変わるそんなエネルギーがある教科だ。そして、他の教科すべてを取り込むことができる、子どもにエネルギーを与える教科であると若い先生に後押しをしてほしい。

子どもにいろいろな力をつけてやり自立させなくてはいけない。知識、知恵がデスクワークに終わってはいけない。実験する、実物を触る、見る、身体で感じる事が家庭科では重要で、家庭科のよいところである。どう実物を提示するか、どう表現するか、どう返すか教師の技量が問われる。

小学校は大変忙しい。時間が限られているので、他教科と関連させ時間を生み出すことが大切である。先輩の先生の知恵とみんなで力を合わせて、できることをやるなどして、子どもの生きる力につなげてほしい。子どもを支える教師、学校であってほしい。